

Nurse

みどり病院2階
一般急性期・地域包括ケア病棟
看護課長 伊佐地 千恵子

一般急性期・地域包括ケア病棟についてご紹介させていただきます。新病院では、急性期病床は2階となりました。一般急性期病棟には主に、誤嚥性肺炎や心不全、慢性腎臓病などにより体調不良とされた方や睡眠時無呼吸をはじめとした検査目的の方が入院されま



患者さんと一緒に目標を共有しています

です。感染症対応病床がありますので、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの感染症の入院受け入れも行っていきます。

地域包括ケア病床には、※レスパイト入院やリハビリ目的の方が入院されます。台風や大雨など災害が予測される場合の避難としての受け入れも行っていきます。

どちらの病床でも早期からリハビリテーションを行っています。新しくなった病棟では、旧病院の時と違い、病棟でリハビリを行いますので、患者さんと医師・リハビリスタッフ・看護師がどれくらい歩けるようになったか？など談笑しながら一緒に目標を共有できるようにになりました。

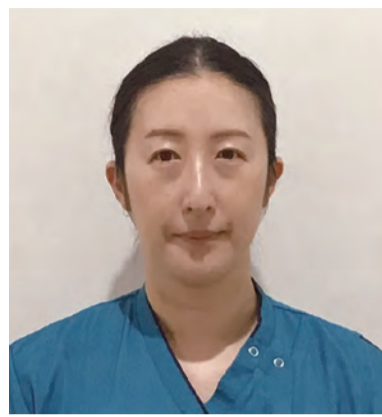


※レスパイト入院は在宅で介護にあたっていらっしゃるご家族（介護者）が、その疲れから介護を続けることができなくなることを防ぐための入院

と福祉の実現を目指す職員として成長していけるよう、他職種と協働して問題の解決を目指し、個々の専門性を活かして病棟での看護に当たっています。

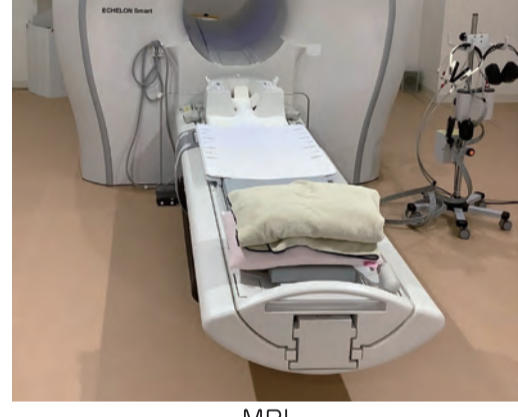
Doctor

みどり病院
脳神経外科専門医
石川 若菜



こんにちは。回復期リハビリテーション病棟で、主に脳卒中後の患者さんを担当している石川若菜です。専門は脳神経外科で、みどり病院は6年目になります。研修医時代から大体2年程度で勤務先が変わってきたので、育児休業期間も含めこんなに長く同じ場所に勤めるのは初めてです。

仕事について子ども達には、「お父さんは病気を治して、お母さんは病気になった人が家に帰る手伝いをしてい」と説明しています。家、というのは自宅だけに限りませんが、患者さんみんなが安心して生活できる「家」に退院できるような色々な職種がチームとなってサポートをしています。



たとえ同じ場所の脳梗塞でも、症状が同じとは限りません。同じ症状の脳梗塞であっても、同じように回復もしません。各個人の様々な要因についてチームで何度も話し合い、リハビリ内容や病棟生活を決定しています。もちろん患者さん本人、ご家族の方々もチームの一員です。

話が変わりますが、新病院になってMRIが新しくなり、脳の健康診断が開設していることをご存知でしょうか。脳の健康診断の結果を脳神経の専門医が直接説明する体制はとっていませんが、画像に関しては放射線科医と脳神経外科専門医がダブルチェックしていますので、安心して受けていただけたらと思いますよ。

2025年1月に開院予定の 歯科衛生士2名の紹介です



歯科衛生士の後藤はるかと申します。歯科衛生士は歯科医師の診療を補助するだけではなく、虫歯や歯周病を予防するためにその人にあったブラッシング指導や歯石除去など、口腔内の健康を守るという重要な役割があると思っています。「自分の歯でおいしく食べる」、「楽しく会話する」など患者さんの口腔の健康づくりを担っていけるよう日々努力していきたいと思っております。



はじめまして。私は今年の4月に入職した村上明里です。



現在は主に居宅や施設への訪問診療をしています。往診先では歯石除去など口腔内の掃除をしています。

2025年1月中旬頃に旧透析センター1階で歯科が開業予定です。

開設する歯科では、地域に密着した歯科を目指しています。地域の皆さんが、お口に関して困ったことがあるとき、最初に相談できるような歯科を作っていきます。

お口について気になることがあれば、気軽に声をかけて下さい。

デジタルトランスフォーメーション

有料老人ホームすこやか
施設長 湯本 純一

2025年問題とは、「団塊の世代」と呼ばれる人々が75歳以上となり、人口が一気に増えることを危惧して生まれた言葉で、介護業界にとっても大きな影響を受けると考えられています。そうした2025年問題を目の前に介護業界でも近年DXが注目されています。DXとはデジタルトランスフォーメーションの略で、デジタル技術や機器を用いてデジタル化を進め、データを自動的に一元管理すればヒューマンエラー（人為的過誤や失敗）が減り、業務の効率化や生産性の向上を見込むことで、人材不足や離職防止を解決する目的で政府も積極的に推進しています。見守りカメラやセンサーにより転倒を未然に防ぐことができたり、スマートフォンで支援記録を入力することで利便性は確かに上がりますが、人間相手の介護でDXに頼りきりになってしまうことはあまりよくありません。重度の基礎疾患を持った方や、認知症を患っている方など、介護職は自らの経験・根拠に基づいて対応し、心とむよな声かけをし、お一人お一人、その方が安心できる環境を常日頃から整えています。DX化で介護の基本が崩れたり、利用者さんが不安になったら本末転倒です。また、デジタル機器の扱い方についても精通する必要があり、誤りがあると個人情報流出に繋がってしまう恐れもあります。利便性だけではなく、従来の介護を守りつつ、誰もが安心して暮らせる社会にしていくことが大切です。



介護なんでも電話相談のご案内

みなさんご存じでしょうか？毎年11月11日は「介護の日」となっています。介護についての理解と認識を深め、介護サービス利用者及びその家族、介護従事者を支援するとともに、これらの人々を取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する観点から、高齢者や障害者に対する介護に関し、国民への啓発を重点的に実施する日を設定されたものです。岐阜県民医連では、その介護の日に合わせて毎年無料の電話相談会を実施しています。介護に関する悩み、困りごと、相談などを受け付けています。ケアマネジャーを中心に悩み相談のプロが受け付けております。また利用者・家族、介護従事者などから寄せられた切実な相談内容を介護改善運動につなげていくことも目的の一つとなっています。身内、知人、友人などお悩みをもってみえる人がいれば是非ご紹介ください。

電話相談番号

フリーダイヤル 0120-110-458